



ササナ



No.26 長寿寺報 令和3年1月

仏教が語る私の正体

皆さん、ごきげんよう。先日、上皇后美智子様のご体調が優れない日々が続いておられるというニュースを目にしました。そのことでお得意のピアノが昔のように弾けなくなれたそうですが、上皇后様は、「今まで出来ていたことは『授かって』いたもの、それができなくなったことは『お返し』したものの。」と発せられたとのことで、私は深く感じ入ると共に、「身心は自分のものではない」というとても仏教的なものを感じました。

仏教において人間は肉体と四つの心のはたらきを合わせた「五つの要素」で出来ていると考えます。例えば、車は車体や車軸、車輪などの部品(要素)が集まって初めて成り立ち、車とはそれぞれの部品が寄り集まったときに初めて起こる仮の名前です。部品がバラバラになれば、そこに車はありません。私たち人間もそれと同じだと考えるのです。要素が集まったときには“人間(私)”という現象が起こりますが、それは一過性のものであって、時が来れば要素はバラバラになり、私という現象は消滅する。そして、車を解体したとき、そこに魂や本体のようなものがないように、私を作る五つの要素を腑分けしていてもそこに魂や私の本体のような中心的なものを見出すことはできません。

私たちは私をつくる要素の一つ一つも私のモノと誤認していますが、お釈迦様は次のように説きます。「修行僧たちよ、身体は私でないし、私のモノでもないし、私の支配下がない。もし、私であり、私のモノであり、私の支配下にあるのであれば病になるはずがない。また、この身体について『このようであれ』とか『このようであってはならない』と意のままにできるはずだ。しかし、現実には自分の意に反して病になり、老いていく。そのように思い通りにならないものを私や私のモノとは呼べない。」そして、私をつくる要素の一々が私の支配下でないことを解き明かしていきます。歳を重ねると、身心に衰えや不調を感じて苛立ちを覚えることも少なくないかと思えます。私もこれまで若いからと身心を酷使してきましたが無理をすると体調不良に陥ります。私たちはもっと身心を労わってあげるべきなのでしょう。

私たちが老いや病や死を忌避するのも、自分に対する執着から、若さや健康、命を『奪われる』と錯覚するからです。でも、お釈迦さまは、それらは自分のモノではないと仰っています。世間では自分のモノを増やすことを幸せとしますが、仏教は反対に自分のモノを手放すことに幸せを見出します。そして、それは青春を過ぎ、人生の円熟期に差し掛かった方々にそぐう生き方なのではないでしょうか。今年も共に仏教を学びましょう。

ご案内

大般若祈祷 一年の無病息災を祈念します

◆日程 1月1日(金)
午前9時～10時まで

薬師講法要(寺講)

新型コロナウイルス対策として三密を避けるため下記の通り、午前午後の二回に地区を振り分けてお勤めします。一般檀徒の皆さんは午前のお勤めに、世話人の皆さんは午後のお勤めにお参り下さい。

◆日程 1月8日(金)
午前10時 一般檀徒
午後1時 各地区世話人

◆用意 御仏前・塔婆供養料・霊供膳料

1月の日曜坐禅会

◆日程 10日・17日・31日
◆時間 午前9時～9時半
◆参加 無料
◆申込 不要